

令和7年度 土木工事標準積算基準書等の改定概要

(1) 現場環境の改善費用の充実

- ・現在は経口補水液、空調服等にかかる費用を現場管理費にて計上
- ・今後は、現行の現場管理費の補正と併せ、ミストファン等の費用を
現場環境改善費として設計変更を実施できる

(2) 移動時間等を踏まえた歩掛改定

- ・路上工事や建設機械を日々回送する工種において、資材積込・現場移動等の時間を踏まえ、日当たり施工量が減少するため、歩掛を改定
(切削オーバーレイ工、油圧圧入引抜工、鋼橋架設工等の11工種)

(3) 測量業務の諸経費

- ・実態調査の結果を踏まえ、測量業務の諸経費率を改定

(4) 土木工事標準歩掛の改定

- ・「施工合理化調査等の実態調査」の結果を踏まえ、新規工種の制定及び既存制定工種を改定(14工種)

(5) 施工パッケージ型積算関係の改定

- ・「施工合理化調査等の実態調査」の結果を踏まえ、施工パッケージ型積算基準及び標準単価表を改定(10工種)

(6) 鋼橋製作工

- ・鋼橋製作工の歩掛について、製作現場の実態を踏まえ工数を増加

(7) 設計業務等標準歩掛

- ・歩掛実態調査の結果を踏まえ、軟弱地盤技術解析業務、橋梁予備設計、橋梁詳細設計の歩掛を改定

令和7年度 国土交通省 土木工事・業務の積算基準等の改定

国土交通省

大臣官房技術調査課

大臣官房参事官グループ

道路局 国道・技術課

国土技術政策総合研究所

社会資本マネジメント研究センター 社会資本システム研究室

1. (1) 現場環境の改善費用の充実

- 従来、国土交通省直轄工事の積算では、ミストファン等の設備対応を共通仮設費（現場環境改善費）、経口保水液・空調服等の労務管理にかかる費用を現場管理費(真夏日の日数に応じて補正)にて計上。
- 工期設定では、猛暑日を考慮して設定。想定以上に猛暑日が確認された場合、適切に工期変更(延長)を行い、工期延長日数に応じて増加費用を計上。
- 令和7年度より、「現場環境改善費」(率計上)から避暑（熱中症対策）・避寒対策費を切り離し、熱中症対策・防寒対策にかかる費用を「現場環境改善費」（率計上）の50%を上限に、設計変更を実施。

<共通仮設費（現場環境改善費）>

現行

率計上費目	実施する内容（率計上分）
現場環境改善（仮設備関係）	1. 用水・動力等の供給設備 2. 緑化・花壇 他
現場環境改善（営繕関係）	1. 現場事務所の快適化 2. 労働宿舍の快適化 他
現場環境改善（安全関係）	1. 盗難防止対策 2. イメージアップ経費 3. 避暑（熱中症対策）・避寒対策
地域連携	1. 見学会の開催 2. デザイン工事看板 他

※計上費目 4 項目から 5 つ選択（1 項目重複）



今後

率計上費目	実施する内容（率計上分）
現場環境改善（仮設備関係）	1. 用水・動力等の供給設備 2. 緑化・花壇 他
現場環境改善（営繕関係）	1. 現場事務所の快適化 2. 労働宿舍の快適化 他
現場環境改善（安全関係）	1. 盗難防止対策 2. イメージアップ経費
地域連携	1. 見学会の開催 2. デザイン工事看板 他

※計上費目 4 項目から 5 つ選択（1 項目重複）

積み上げ計上費目（精算時の設計変更対象）

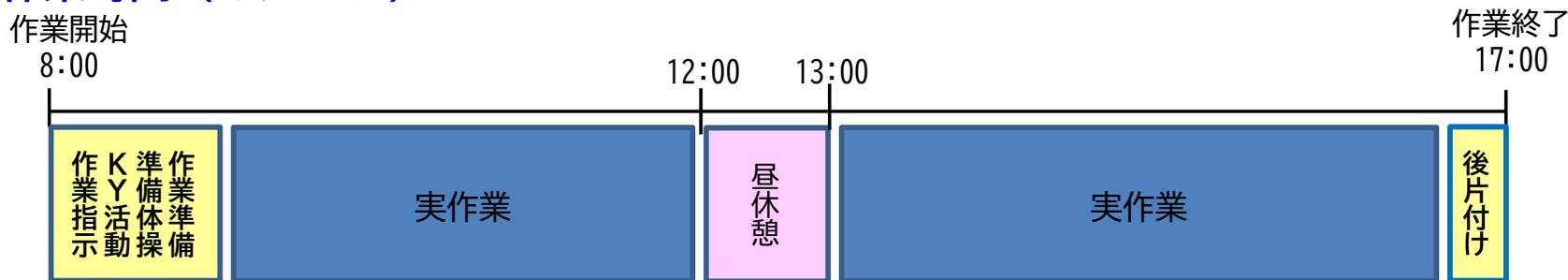
主に現場の施設や設備に対する熱中症対策・防寒対策に関する費用については、対策の妥当性を確認の上、設計変更。なお、積み上げ計上の場合は、現場管理費に計上される作業員個人の費用と重複がないことを確認し、率分で計上される現場環境改善費の50%を上限。

1.(3) 移動時間等を踏まえた歩掛改定

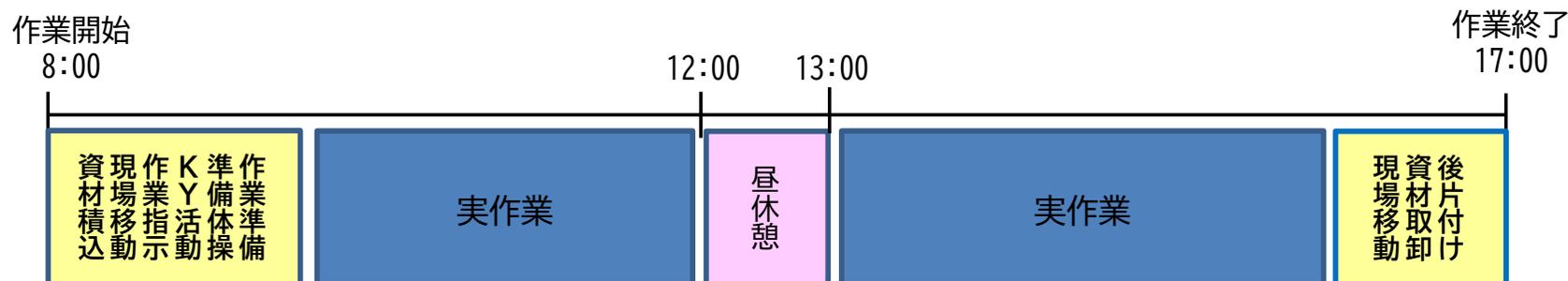
時間外労働の上限規制対応【移動時間を考慮した歩掛の改正】

- KY活動や準備体操、現場内の移動時間や後片付け等は一日の作業時間（就業時間）に含まれており、標準歩掛においても適切に反映されている。
- 路上工事など常設の作業帯が現場に設けられない工事において、別途設けられた資材基地から現場への移動時間を適切に反映できるよう、令和4年度に調査表の全面見直しを実施。
- 令和6年度は、路上工事だけでなく仮設工事においても同様の傾向が見られたことから、これを適切に反映。

■従前の作業時間（イメージ）



■移動時間を踏まえた作業時間（イメージ）



- 切削オーバーレイ工など**10工種**で、現場移動等により実作業時間が短くなり、日当たり施工量が減少している傾向が見られた。⇒R7年度歩掛改正に反映

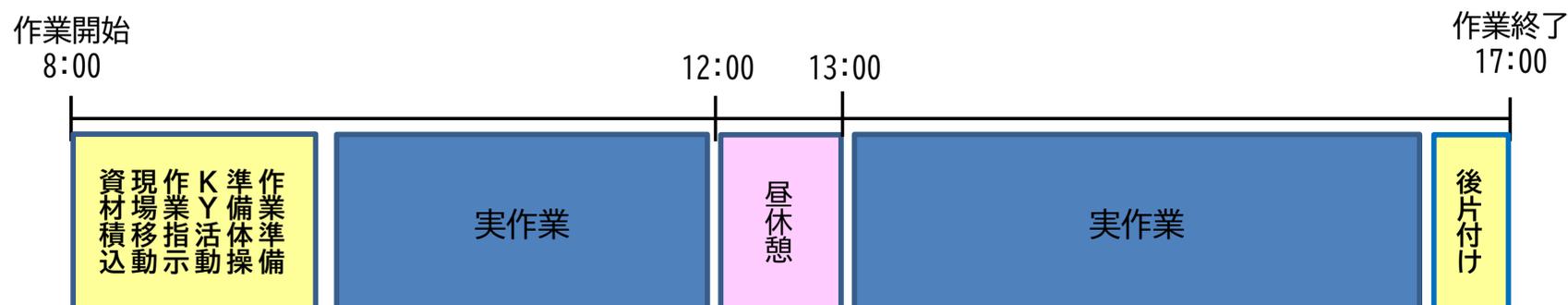
切削オーバーレイ工、構造物補修工（断面修復工）、油圧圧入引抜工、床版補強工、塵芥処理工、排水構造物工（暗渠排水管）、路盤工、路盤工（ICT）、透水性アスファルト舗装工、沓座拡幅工

1.(3) 移動時間等を踏まえた歩掛改定

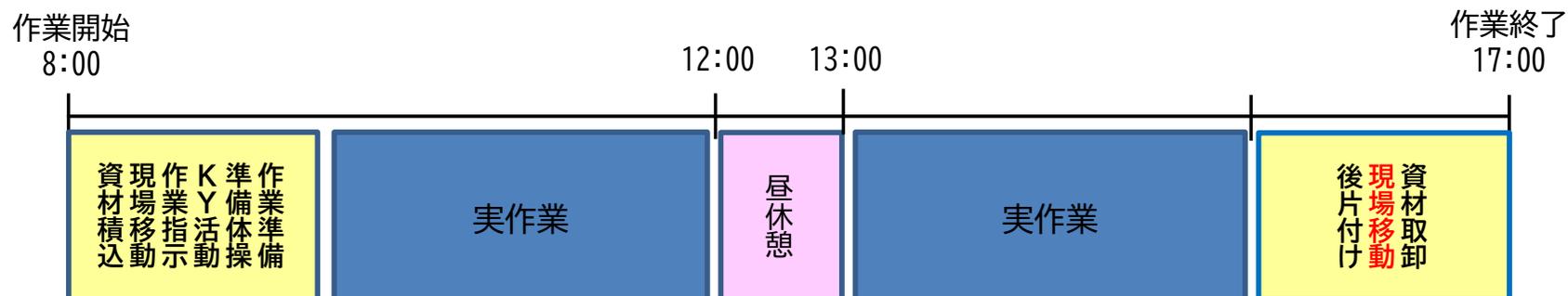
時間外労働の上限規制対応【建設機械の回送時間を考慮した歩掛の改正】

- 令和6年度は、建設機械を日々回送して使用する工種において、日当たり施工量に変動が見られたことから、これを適切に反映。

■従前の作業時間（イメージ）



■移動時間の増加により変化した作業時間（イメージ） ※日々回送する移動式クレーン

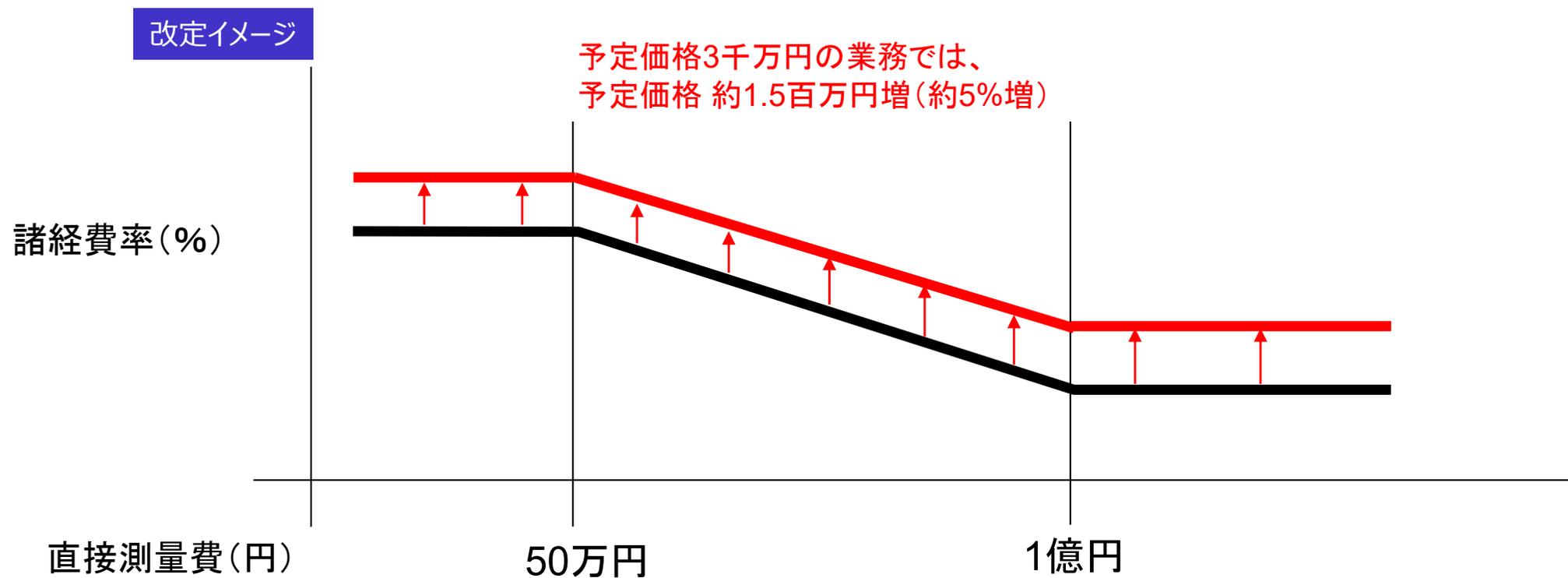


- 鋼橋架設のバント設備にかかる工種において、移動式クレーンが日々回送することで実作業時間が短くなり、日当たり施工量が減少している傾向が見られた。 ⇒ 令和7年度歩掛改正に反映

鋼橋架設工（バント設備設置・撤去、バント基礎設置・撤去）

2.(2) 測量業務の諸経費

○ 実態調査の結果を踏まえ、測量業務の諸経費率を改定



【現行】

50万円以下	50万円超え1億円以下	1億円超え
91.2%	$371.23 \times (\text{直接測量費})^{-0.107}$	51.7%



【改定】

50万円以下	50万円超え1億円以下	1億円超え
95.8%	$288.50 \times (\text{直接測量費})^{-0.084}$	61.4%

4.(1) 1) 令和7年度 土木工事標準歩掛の改定

1. 土木工事標準歩掛 【14工種】

土木工事標準歩掛は、土木請負工事費の積算に用いる標準的な施工条件における単位施工量当たり、若しくは日当たりの労務、材料、機械等の規格や所要量について工種ごとにとりまとめたもので、「施工合理化調査等の実態調査」の結果を踏まえ、新規工種の制定及び既存制定工種を改定

(1) 新規制定【3工種】

- ①排水材設置工（水平排水層）、②中層混合処理工（ICT）、③切削オーバーレイ工（ICT）



排水材設置工（水平排水層）



中層混合処理工（ICT）



切削オーバーレイ工（ICT）

(2) 使用機械、労務等の変動による改定【6工種】

- ①スラリー攪拌工、②全回転オールケーシング工、③残存型砕工、④締切排水工、⑤雪寒仮囲い工、⑥大型土のう工

(3) 移動時間を考慮した改定【4工種】

- ①構造物補修工（断面修復工）、②切削オーバーレイ工、③油圧圧入引抜き工、④床版補強工

(4) 建設機械の回送時間を考慮した改定【1工種】

- ①鋼橋架設工



大型土のう工



雪寒仮囲い工



鋼橋架設工



油圧圧入引抜き工

4.(1)2) 令和7年度 施工パッケージ型積算関係の改定

2. 施工パッケージ関係歩掛 【10工種】

施工パッケージ型積算基準は、土木請負工事費の積算に用いる標準的な施工条件における機械経費、労務費、材料費を含む単位施工量当り「単価」を工種区分毎に設定したもので、「施工合理化調査等の実態調査」の結果を踏まえ、施工パッケージ型積算基準及び標準単価表を改定

(1) 使用機械、労務等の変動により改定を行う工種 【4工種】

- ①発泡スチロールを用いた超軽量盛土工、
- ②護岸基礎ブロック据付工、③舗装版クラック補修工、
- ④消波根固めブロック工



発泡スチロールを用いた超軽量盛土工



護岸基礎ブロック据付工

(2) 移動時間を考慮した工種 【6工種】

- ①排水構造物工（暗渠排水管）、 ②塵芥処理工、
- ③路盤工、④路盤工（ICT）、⑤透水性アスファルト舗装工、
- ⑥沓座拡幅工



路盤工（ICT）



排水構造物工（暗渠排水管）

「施工パッケージ型積算方式標準単価表（参考資料）」の公表

施工パッケージ型積算方式の理解向上に資するため、施工パッケージ標準単価の代表機労材規格のうち、**代表機械規格及び代表労務規格の参考数量（積算単位当りの労務の人工数や機械の運転日数等）**を「施工パッケージ型積算方式標準単価表（参考資料）」として、**国土技術政策総合研究所HPに掲載**（令和7年3月末公表）。

(https://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme_sekop.htm)

4.(2) 鋼橋製作工

○ 鋼橋製作工の歩掛について、製作現場の実態を踏まえ改定

● 製作費

鋼橋製作費 本体製作工
加工組立工数(標準工数(人/個))

種別		現行	改定
丸型鋼橋脚	a1 大型	6.39	6.76
	a2 小型	0.54	0.57

鋼橋製作費 本体製作工
仮組立て工数(標準工数(人/個))

種別		現行	改定
鋼床版鈹桁	c	3.61	4.17
アーチ	c	2.55	2.70

鋼橋製作費 付属物製作工数 伸縮継手(標準工数(人/t))

形式		現行	改定
フィンガー形式 (J-1)	d	11.2	15.3
車道部はフィンガー形式 歩道部重ね合わせ(踏板)形式 (J-2)	d	12.2	14.9

4.(5) 設計業務等標準歩掛

■ 軟弱地盤技術解析業務

● 歩掛実態調査の結果を踏まえ、軟弱地盤技術解析業務の歩掛を改定。

工種(細別)		職種 単位	直接人件費						
			主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
解析計画		人/業務	1.5 1.1		1.5 1.6	2.0 2.1	1.0 1.3	0.5 0.7	0.5 0.8
現地踏査		人/業務			2.0 1.9	1.5 1.8	1.5 1.6	1.0 0.8	1.0
現況地盤解析	地盤破壊	円弧すべり	人/断面		1.0 1.4	1.5 2.1	2.0 2.7	2.5 3.4	2.0 2.7
	地盤変形	簡便法	人/断面		1.0 1.4	1.5 2.1	1.0 1.3	0.5 0.7	2.0 2.7
	地盤圧密	一次元解析	人/断面		1.0 1.4	1.5 2.1	2.0 2.7	1.5 2.1	2.0 2.6
	地盤液状化	簡便法	人/断面		1.0 1.4	2.0 2.7	1.5 2.1	1.0 1.4	2.5 3.3
検討対策工法の選定		人/業務		1.0 0.9	2.0 1.9	2.0 2.5	2.0 2.1	1.0 0.7	1.5 1.6
対策後地盤解析	地盤破壊	円弧すべり	人/断面		1.5 1.9	1.5 1.9	2.0 2.5	2.5 3.0	2.5 3.0
	地盤変形	簡便法	人/断面		1.5 1.9	1.5 1.9	1.5 1.8	1.0 1.3	2.5 3.0
	地盤圧密	一次元解析	人/断面		1.5 1.9	1.5 1.9	1.5 1.8	2.0 2.5	1.5 1.8
	地盤液状化	簡便法	人/断面		1.5 1.9	2.5 3.1	1.5 1.9	1.5 1.8	2.5 3.0
最適工法の決定		人/業務		1.0 0.8	2.0 1.8	1.5 1.8	1.0 1.3	1.0 1.2	1.0 0.9
照査		人/業務		1.5 1.3	1.5 1.7	1.0 1.4	1.0 0.7		

上段が現行歩掛、下段が改定歩掛

4.(5) 設計業務等標準歩掛

■ 橋梁予備設計

- 歩掛実態調査の結果を踏まえ、橋梁予備設計の歩掛を改定。

	直接人件費 (1橋当り)						
	主任技術者	技師長	主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
設計計画	2.0	2.1	4.4	6.2	4.9		
	2.3	2.4	4.8	7.2	4.6		
設計計算			3.4	4.6	7.6	6.4	
			3.6	4.8	7.2	6.9	
設計図					4.8	5.2	6.1
					5.0	5.7	6.5
概算工事費算出				1.7	4.7	5.8	5.3
				1.9	4.5	6.5	5.1
照査		1.9	2.8	4.2			
		2.0	2.8	4.4			
報告書作成				1.5	2.2	1.6	1.3
				1.6	2.4	2.0	1.4

区分	職種	直接人件費 (1業務当り)						
		主任技術者	技師長	主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
現地踏査				1.3	1.6	1.8	0.9	
				1.6	1.6	1.6	0.8	

上段が現行歩掛、下段が改定歩掛

4.(5) 設計業務等標準歩掛

■ 橋梁詳細設計

- 歩掛実態調査の結果を踏まえ、橋梁詳細設計の歩掛を改定。

区分 \ 職種	直接人件費 (1橋当り)						
	主任技術者	技師長	主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
座標計算				0.8	1.7	2.0	
				0.9	1.9	2.3	
施工計画				3.0	4.1	4.5	
				3.4	5.3	6.5	
動的照査			3.2	7.2	9.1	9.6	
			4.0	8.3	11.7	11.5	

上段が現行歩掛、下段が改定歩掛